



岩手大学 (岩手県)



知識、体験、分析を融合させた知的発見による学びの場を提供

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

岩手大学は、宮沢賢治の母校として、また、東日本大震災以降は特に地域の復興に取り組み、地域の持続的な発展に寄与することを目的として「震災復興・地域創生」「グローバル人材育成」「イノベーション創出」の3つを柱とした持続可能な地域社会に貢献する「地域密着型」の大学である。

1949年に学芸学部、工学部、農学部からなる新制大学として発足した。現在は、人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部の4つの学部及び総合化学専攻、地域創成専攻、理工学専攻、農学専攻からなる総合科学研究科、教育学研究科、工学研究科、獣医学研究科、連合農学研究科の5つの研究科がある。

学内共同教育研究施設としては、教育推進機構グローバル教育センター、情報基盤センター、保健管理センターなどが設置されている。

岩手大学は学生数約5,500名、教職員約750名（うち教員約480名）の大学である。4つの学部がすべて同じキャンパスに設置され、10分以内でキャンパスのどこへでも移動でき、皆が集まれるのも大変便利である。

本学には約50万点の資料や標本等がある。これらの財産を学内で教育研究に用いるだけでなく、一般市民にも活用してもらう目的で、大学全体を総合博物館として“岩手大学ミュージアム”の名称で一般公開している。中には植物園、自然観察園、獣医学科標本室等の施設や重要文化財に指定されている農業教育資料館、旧門番所・旧正門があり、市民の憩いの場ともなっている。

② 国際交流の実績

2018年9月26日現在で、中国・ロシア・モンゴル・タイ・アメリカ等18カ国1地域、54の大学・研究機関等と国際交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	2016	2017	2018
留学生数	207	218	214
日本語・日本文化研修留学生	3	0	1

④ 地域の特色

本学の位置する盛岡市は、北東北の交通の中心地であり、豊かな自然に囲まれた人口30万の教育・文化都市である。

岩手は、宮沢賢治・石川啄木・野村胡堂・萬鉄五郎・田中館愛橘・金田一京助など、学術・文化に貢献した多くの人材や、後藤新平、新渡戸稲造ら国際的に活躍した人物を生み出した土地である。総理大臣も4人輩出している。県南部に位置する平泉はかつて奥州藤原氏が栄華を誇った土地で、2011年6月にユネスコの世界遺産に登録された。2015年7月に、ユネスコ世界文化遺産に登録された橋野鉄鉱山も釜石市にある。また、県中央部の遠野は、多くの民話や伝承が残り、民俗学者 柳田國男の『遠野物語』で有名である。

さらに、2011年3月の東日本大震災では沿岸地域に甚大な被害を被ったが、盛岡をはじめ内陸地域から被災地支援が継続的に行われ、地域一体となって復興を目指している。

こうした豊かな文化や歴史を有し、また大きな自然災害を経験した岩手の、県都盛岡の中心部に位置する岩手大学で学ぶことは、即ち日本の文化や風土を理解し、災害を含め自然と人間との共存について知るのに適した地域であると言えるだろう。世界各國の有為の若者の訪れを期待している。



■コースの概要

① 研修目的

(a)日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う。

② コースの特色

本コースのねらいは、日本語及び日本の諸事情、即ち日本の文化・歴史・地理・政治・経済・社会・教育等について、理解を深めさせることにある。教室内の学習にとどまらず、日本文化体験、地域住民との文化交流活動、ボランティアなど様々な体験学習が豊富に用意され、体験を通して「日本語」「日本文化」どちらも学べるのが本学のプログラムの特色である。なお、歴史、文化については英語による授業も準備され、日本人学生との共修により理解を深めることができる。

また、滞在中を通じてひとつのテーマについて修了論文をまとめる「個別研究」を通じて、実践的な研究力を高め、卒業論文の基礎研究とすることができる。

③ 受入定員

5名（大使館推薦4名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講する者は、次の1), 2) を満たしていることを要件とする。

- 1) 中級以上（日本語能力試験N3合格相当以上）の日本語学習歴を持ち、日常生活に必要な会話能力、文章の読み書き能力を有する。
- 2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻している。

⑤ 達成目標

本コースの達成目標は以下の通りである。

- 1) 日本語によるアカデミックな文章作成力、口頭発表力を習得する。
- 2) 日本や岩手について体験に基づく幅広い知識を獲得し、理解、解釈する能力を得る。

⑥ 研修期間

2019年10月 ～ 2020年8月

修了式は8月初旬予定（2018年は8月7日に実施）

⑦ 研修科目の概要・特色

本コースは、

- 1) 日本語・日本事情等に関する授業
 - 2) 各自の研究テーマに関する専門の授業（日本人学生との共修）
 - 3) 個別研究
- の3つで構成される。

指導教員の助言のもとに、留学生向け科目のみならず、本学の教養教育科目、専門科目の中から各自の能力、関心に応じて選択し、履修することができる。自由度の高いカリキュラムを活用することにより、独自の日本語・日本文化の研究を深めることが可能となる。

「個別研究」では日本語・日本文化に関するテーマを選択し、文献分析、調査などにより研究を進め、その成果発表を行う。

本学で開講されている日本語・日本事情関係の授業科目は、以下のとおりである。（1コマ=90分）

日本文化・日本研究科目	
国際教育科目	Iwate Studies (岩手学) A *1
	Iwate Studies (岩手学) B *1
	Japanese History A・B
	Comparative Japanese History A・B
	Japanese Traditional Culture A
	やさしい日本語で語る日本の古典文学
	School Internship I, II
	国際合宿
	個別研究
	教養教育科目
	日本事情B
	多文化コミュニケーションA *2
	多文化コミュニケーションB *2
	Japanese Traditional Culture B

日本語科目	
国際教育科目	中級日本語Ⅱ文法
	中級日本語Ⅱ会話
	中級日本語Ⅱ作文
	中級日本語Ⅱ漢字
	中級日本語Ⅱアカデミック
	上級日本語アカデミック
	上級日本語ビジネス

日本語科目	
教養教育科目	上級日本語A（口頭発表）
	上級日本語B（読解1）
	上級日本語C（理系1・文系1）
	上級日本語D（論文作成1）
	上級日本語E（口頭表現）
	上級日本語F（読解2）
	上級日本語G（理系2・文系2）
	上級日本語H（論文作成2）

1) 必須科目

- ①日本語科目：各学期4単位以上
- ②日本文化・日本研究科目4単位以上
- ③個別研究

2) 見学、地域交流等の参加型科目

- *1 岩手学：周辺の名所・旧跡等を訪ねたり、博物館等の文化施設で研修を行なう。
- *2 多文化コミュニケーション：合宿研修が組み込まれた、留学生と日本人学生との交流型授業である。

その他、学内・学外のイベント、ボランティア活動等に積極的に参加して、関係者や市民との交流を深める。大学祭、さんさ踊り（地域の祭り）、スキーツアー、着物体験会など季節毎の催しが学外諸団体の協力のもとに数多く実施され、留学生がこれらを通して日本文化を実体験できる。小中高などに招かれて交流会等に参加することも多い。

3) 修了研究の内容

日本語・日本文化に関するテーマを選択し、文献分析、調査などにより研究を進め、その成果発表を行う。

4) 日本人学生との共修の機会

日本文化・日本研究科目が日本人学生との共修科目となっている。（個別研究、日本事情A、Bを除く）また、本学の教養教育科目、専門科目を履修することができ、日本人学生とともに学ぶ機会が多い。

5) その他の講義、選択科目等

人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部で開講されている専門教育科目の中から、各自の能力、関心に応じて講義を選択することができる。

⑧ 年間行事・年間スケジュール

- 9月下旬 来日、開講式・オリエンテーション
- 10月 不來方祭（文化祭）
- 11月 北東北国立三大学合同合宿研修
フィールドスタディ（見学旅行）
- 12月 着物体験
- 1月 フィールドスタディ（スキー）
- 6月 留学生と市民のガーデンパーティー
- 7月 個別研究発表
- 8月 盛岡さんさ踊り
プログラム修了式
- 8月下旬 帰国



フィールドスタディ
（見学旅行）



フィールド
スタディ（スキー）

⑨ 指導体制

留学生の専門分野や興味・関心にマッチする専攻の教員が、指導教員としてあたる。また、日本語指導や生活・就学上の相談などについては、グローバル教育センターの教員が担当する。

グローバル教育センターの専任教員は、次の通りである。

職名	氏名
教授	松岡 洋子
教授	尾中 夏美
准教授	アンデス カールキビスト
准教授	平井 華代
特任助教	會田 篤敬

⑩ コースの修了要件

修了判定＝必修科目を全て履修した者について、履修科目の成績により判定する。また、成績等の条件を満たした場合、各履修科目について単位修得証明書を発行する。



着物体験



ガーデン
パーティー

■宿舎

キャンパス内に位置する国際交流会館（単身用30室、夫婦用3室、研究員用3室）や日本人学生と混住の学生寮、あるいは大学が借り上げている民間アパートに入居が可能である。

http://iuic.iwate-u.ac.jp/01_foreigner/foreigner_03/f_03_03.html



国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

帰国後の進路等について、継続的に連絡をとり、情報交流や必要な支援を行う。

また、日本での就職希望者について、キャリア支援課と協力し、ガイダンス等の支援を行う。

■問合せ先

岩手大学学務部国際課

住所：〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18-34

TEL： +81-19-621-6927（直通）

FAX： +81-19-621-6290

Email： gryugaku@iwate-u.ac.jp

岩手大学グローバル教育センターホームページ

<http://iuic.iwate-u.ac.jp/>

岩手大学ホームページ

<http://www.iwate-u.ac.jp/>